

科 目		必・選	担 当 教 員	学 年 ・ 学 科		単 位 数	授 業 形 態						
国 語 (Japanese)		必	宮本克之 北澤正憲	1 年 生 環境都市工学科		3	現国 通年 2 時間 古典 半年 2 時間						
授業概要		国語は思考と表現とに大別できるが、思考は表現の基礎となるものである。思考の面においては、随想、評論などの説明的文章を通して論理的な思考力を身につけ、小説、詩歌など文学的文章を通して自己と他者との関係、人間と社会、自然との関係について理解を深める。表現では、語彙や漢字等を学んで、構築された思考の枠組みのもとに表現力を培い、将来必要な文書作成や口頭発表に役立てる。											
到達目標		1、教材とする文章が遅滞なく読め、説明的文章では筆者の主張や意図をほぼ正確に理解し、文学的文章では主題を把握し人物の心情について理解できること。 2、感想文、小論文などで自分の感じたことや考えたことを丁寧に表現でき、また調べたことや自分の意見を口頭発表することに慣れていくこと。 3、古文・漢文の古典講読を通し、現在に伝わる日本の伝統的な文化や思想を理解できること。											
評価方法		4回の定期試験 7 0 % (古典のある半期については、現国対古典の比を 1 対 1 とする。)、提出物、小テスト、意見発表を 3 0 % として評価。											
教科書等		『国語総合改訂版』 (大修館書店)、『標準漢字演習』 (とうほう)、 『現代新国語辞典』 (三省堂)、『用例古語辞典』 (学研)、プリント。											
内 容		現 国				古 典		学習・教育目標					
第 1 週	国語を学ぶということ スピーチの基礎①				第 1 週	古典に親しむ		D	D				
第 2 週	随想「未来を切り開く力」				第 2 週	「宇治拾遺物語」		D	D				
第 3 週	"				第 3 週	"	漢文入門	D	D				
第 4 週	表現①「味」を表現する。				第 4 週	"	格言	D	D				
第 5 週	" 言葉①漢字と語彙				第 5 週	「伊勢物語」 "		D	D				
第 6 週	小説「羅生門」				第 6 週	"	故事成語「矛盾」	D	D				
第 7 週	"				第 7 週	"		D	D				
第 8 週	"				第 8 週	" 前期中間試験		D	D				
第 9 週	"				第 9 週	「平家物語」 「先従隗始」		D	D				
第 1 0 週	"				第 1 0 週	" "		D	D				
第 1 1 週	"				第 1 1 週	" 「絶句」		D	D				
第 1 2 週	" 表現②感想を書く。				第 1 2 週	" "		D	D				
第 1 3 週	詩「一つのメルヘン」ほか				第 1 3 週	「万葉集」「古今集」「律詩」		D	D				
第 1 4 週	"				第 1 4 週	「新古今和歌集」 "		D	D				
第 1 5 週	"				第 1 5 週	古典のまとめ 前期末試験		D	D				
第 1 6 週	短歌 スピーチの基礎②							D					
第 1 7 週	" 表現③短歌を詠む。							D					
第 1 8 週	手紙「学位を頂きたいのであります」							D					
第 1 9 週	言語「言葉についての新しい認識」							D					
第 2 0 週	" 言葉②漢字と語彙							D					
第 2 1 週	"							D					
第 2 2 週	"							D					
第 2 3 週	" 表現④意見を述べる。							D 後期中間試験					
第 2 4 週	小説「なめとこ山の熊」				※古典を後期に行う場合は、後期に読み替えることとする。 後期末試験			D					
第 2 5 週	" 言葉③漢字と語彙							D					
第 2 6 週	"							D					
第 2 7 週	"							D					
第 2 8 週	"							D					
第 2 9 週	"							D					
第 3 0 週	まとめ・コミュニケーションのために							D					
(特記事項) 各単元の中で、漢字や語彙を習得し、古典においては漢文も随時学ぶため、進度が計画より前後することがある。			JABEEとの関連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
			本校の学習	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
			・教育目標								◎		

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。）

(現代文)

第1週 「国語」を学ぶということ。スピーチの基礎①

- ・私たちは国語を何のために学ぶのか。「ことば」を学ぶ目的と方法を理解する。
- ・魅力的なスピーチをするためにはどうすべきか。スピーチの基礎を理解し、実際に体験する。

第2週～第3週 随想「未来を切り開く力」

- ・羽生善治さんのテキストを新鮮な気持ちで読んでみよう。

第4週～第5週 表現① 「味」を表現する。

- ・「味」等を例にして、魅力的な表現を探す。また、実際に書いて、表現を工夫してみる。

第6週～第12週 小説「羅生門」

- ・「羅生門」は、芥川龍之介の挫折した恋愛体験から書かれたと言われている。この作品を読み、人間の欲望と絶望がどのように描かれているか考察し、文章読解能力を養う。
- ・漢字や語彙についても学習する。

第13週～第15週 詩「一つのメルヘン」ほか

- ・日本の代表的な詩篇を対象に、詩人たちの特徴的な表現方法を学び、日本語の美しさに触れる。

第16週～第17週 短歌 スピーチの基礎② 表現③短歌を詠む。

- ・短詩型文学の凝縮された言語表現から作品の世界を理解するとともに、ことばのリズムや調子を鑑賞する。また、実際に短歌等を制作することを通じてリズム感を養う。
- ・スピーチの方法について再度確認し、実際に口頭発表を行う。

第18週 手紙「学位を頂きたいのであります」

- ・夏目漱石の手紙を題材に彼の思想を学び、あわせて手紙の書き方を学習する

第19週～第23週 言語「言葉についての新しい認識」

- ・より難解な評論文を題材に、読解・分析能力を養うとともに、言語への理解を深める。
- ・漢字や語彙についても学習する。

第24週～第29週 小説「なめとこ山の熊」

- ・宮沢賢治の思想と表現を学ぶことで、他者とのコミュニケーションについて理解を深める。
- ・漢字や語彙についても学習する。

第30週 コミュニケーションのために

- ・国語学習のまとめ。

(古典)

第1週 古典に親しむ。

- ・古典の世界を知るために必要となる知識を学習する。

第2週～第4週 説話「宇治拾遺物語」 漢文入門 格言

- ・簡単な説話を例に、古文の表現を学習する。
- ・漢文を読むための基本的な知識を学習する。

第5週～第8週 「伊勢物語」 故事成語

- ・歌物語の世界に親しむ。
- ・「矛盾」ほかの漢文を読む。

第9週～第12週 「平家物語」「先従隗始」「絶句」

- ・軍記物語の言葉のリズムを楽しむとともに、登場人物の心情を理解する。
- ・漢文の返り点など訓読の基礎や、書き下しの仕方を習得する。

第13週 「万葉集」「古今和歌集」「律詩」

- ・万葉の素朴、古今の技巧など、詩歌の表現を楽しむ。
- ・唐詩の世界に親しむ。

第14週 「新古今和歌集」「律詩」

- ・日本の伝統文芸の様式美を知る。

第15週 古典のまとめ